

『環の国』実現に向けて、「化学物質と環境円卓会議」への期待

21世紀は環境の世紀。

地球規模の環境問題の重要性を 市民一人ひとりが自覚し、
自分自身の暮らしの見直しを進めることが 求められています。

そして、こどもや孫の世代に 住み良い環境を伝えるのが、
親世代の大きな役目です。

特に、日常生活での化学物質への不安も増大しており、
市民は化学物質とどう付き合い、どう行動すればいいのか、
安心・安全な暮らしの情報を求めています。

“大量生産・大量消費・大量廃棄”の使い捨て社会から、
持続可能な循環社会へ転換が進む “変化の時代”の中で、
的確な情報交流による「産業界・市民・行政の信頼の醸成」が
大いに期待されているのです。

「21世紀『環の国』づくり会議」に生活者として参加し、実感したのは

- 21世紀の具体的ビジョンを描き、
各主体が共に一歩を踏み出すための合意形成の場
- 地球温暖化防止、循環型社会、自然と共生する「環の国」
実現に向けて求められる

「環境と経済の両立（持続可能な経済社会システム）」と

国民各主体の「人と人の環（環境パートナーシップ）」
- 私たち一人ひとりの実践と、環境政策・産業界の動きが
連携しあって進む大切さ
- すべての日本人に問いかける、
地球の一員としての自覚、様々ないのちと共にくらす自覚、
そして 新しい生活文化の創造

民間活力あふれる「21世紀」に向けて、産業界と市民の役割の大切さ

○「市民と産業界が主役。行政がコーディネート」する
持続可能な社会を創る、新しい役割分担

～「拡大生産者責任」と「消費者の排出者責任」で推進する
「3Rの優先順位」の徹底～

- ・企業～環境設計、新ビジネス創出で、経済活性化の柱に
- ・市民～グリーンコンシューマーの消費行動やくらしの実践と、
消費者の責任の徹底
- ・国・地方公共団体～
環境企業を応援する経済政策の推進(環境税など)
企業と市民の環境リスクコミュニケーションの推進
環境学習・消費者啓発、市民参加の推進

相互の信頼を育む、『化学物質と環境円卓会議』への大いなる期待

～安心・安全な暮らしに向けて

産業界と市民のリスクコミュニケーション推進方法の提案～

○有害化学物質の影響評価、情報公開、削減策などについて
「検討を継続する場」の確保～円卓会議の意義の合意形成

○産業界および、身近な地域の化学物質情報を収集・公表し、
市民の疑問やニーズに答える「第三者機関(サイト)の設置」

○市民が主体的に化学物質問題を学び、考え、行動できるよう
多様かつ総合的な視点からの「学びの場」の確保

○化学物質処理に関する情報公開と、処理の仕組みの検討

- ・化学物質専門の産業廃棄物処理業者の状況の把握
- ・家庭の医薬品・化粧品・ペンキ・蛍光灯など、
化学物質の含まれる物の回収・処理の仕組みの提言